

氏 名：海老原 樹恵

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第181号

学位授与年月日：2020年3月10日

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

論文審査委員：主査 木下 康仁（聖路加国際大学特命教授）

副査 縄 秀志（聖路加国際大学教授）

副査 麻原 きよみ（聖路加国際大学教授）

副査 安藤 久美子（聖マリアンナ医科大学統合失調症治療センター長）

論文題目：ジョイント・クライシスプランの支援を通じた統合失調症患者と専門職との相互作用のプロセス —専門職の体験に焦点を当てたモデル構築型事例研究—

博士論文審査結果

本論文は、ジョイント・クライシスプラン(Joint Crisis Plan、JCP と略記)と呼ばれる精神障害者(当事者と略記)への支援の方法の可能性を、専門職の経験の分析から詳細に探求したものである。JCP は症状の再燃等による危機的状況への対処方法を、専門職との協働により当事者が予め、希望する治療や支援を受けるための計画内容をつくりそれを文書化したもので、精神医療において強制治療をなくし、それに代わる安全でむしろ回復を促進する危機介入方法として期待されているものである。

ICP は当事者と専門職との二者関係における濃密なコミュニケーションに基づくものであり、本研究は社会学におけるシンボリック相互作用論を理論的基盤として実施された。2 施設 3 名の専門職を対象とする予備研究から、ケースごとの個別性の重要性和 JCP の方法としての共通性、さらに両者間の相互作用が二者関係を越えた広がりをもたらす可能性が示唆された。

本研究は、JCP を使用している 9 施設の協力を得て、当事者の病状と治療段階、生活状況、サービス内容などから精神科病棟(3 施設)、24 時間型生活支援施設(3 施設)、通所型社会復帰施設(3 施設)の三つに類型化し、合計 12 名の専門職(看護師 6 名、精神保健福祉士 6 名)を対象とした半構造化面接調査を実施した。当事者はすべて統合失調症者とした。使用されている JCP は 3 タイプであった。

分析方法はモデル構築型事例研究であり、個別性を把握しつつ JCP の共通性を明らかにするために M-GTA を用いた分析を 12 名それぞれについて行い、次に、施設類型ごとにサブカテゴリーの抽象度で支援プロセスをまとめ、最終的にそれらを統合し三つのフェーズ かなる JCP の支援モデルを構築した。

本論文は JCP の基本特性が、当事者が専門職と共に「共有の言葉を創る」ことにより「当事者の力を引き出す」点にあることを明らかにした。共有の言葉とは、意味を協働で創ることを、危機的状況を含め将来起こりうることからの文脈で行うという時間志向を特徴とするため、二者間における関係性に支えられると同時に、そのことがその後に当事者の力を自然に引き出すことにつながっていた。その諸相を施設タイプ別に事例として記述した。さらには、JCP には施設内において専門職間で共有されることで連携を強化する働きがあり、地域生活移行後では他職種間での連携の創出にも影響を与え地域包括ケアシステムにおける重要な支援方法となることが確認された。

本論文では質的研究に求められる詳細で厚みのある記述はできているが、事例分析から施設類型ごとのモデル化、そして、統合モデルの構築には分析方法の明確化と解釈の緻密さがなお必要である。しかしながら、こうした課題はあるものの論文として完成された形になっており独自の知見が得られている。また、審査会における質疑応答も十分であった。

以上により、本論文は、本学学位規定第 5 条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。